

Scouting IB araki Vol. 27

スカウティング茨城 Mar.2005



つくばに3輪のユリが咲く！

2004年秋、つくば第3団が発団しました

2004年（平成16年）11月27日に、つくば第3団の発団記念式が行われました。

当日は、橋本副連盟長を初め多くの来賓の方々、そして第4地区の各団に加えお隣の牛久第2団と遠く千葉県連盟市原第7団からも多数のスカウトが参加して盛大



に行われました。つくば第3団は、ビーバー隊、カブ隊、ボーイ隊、ベンチャー隊合わせて30名以上のスカウトがいます。式典が始まるとスカウト全員が少し緊張した面持ちで入場しましたが、ベンチャースカウトの岩村君が司会を務める中、ビーバースカウトを含め一人一人が最後まで主役を演じ続けました。

つくば第3団の指導者の多くは、つくば第1団でカブスカウト活動に携わってきました。つくば第1団は従来からスカウトの人数が大変多く、楽しく隊集会ができる一方で本来の組集会がなかなかできないため、スカウト一人ひ

とりの個性を十分つかみにくいと多くの指導者が問題意識を持っていました。このような中、昨年9月にウッドバッジ実修所に参加した指導者が中心になって、スカウトの人数は少なくとも組集会中心の活動を通じてスカウトの成長を見守りたいと強く思ったことが今回の発団へとつながりました。

これでつくば市には、つくば第1団、つくば第2団（旧荃崎第1団）に加えて3つ目のユリの花が咲いたこととなります。これからは、それぞれの団が特徴をだしながら地域にしっかりした根を張り、楽しいスカウト活動を続けて行ってくれることでしょう。



「心のキーホルダー」

日本ボーイスカウト茨城県連盟
連盟長 關 正 夫

スカウトの皆さん、元気で楽しくスカウティングを進めていることと思います。

さて、過日、県内各団のすべてのスカウト・スカウターの皆さんに美しい「キーホルダー」が配布され、それぞれ隊長からその意義や使い方について、ご指導があったことと思います。

この「キーホルダー」は茨城県の代表54名の県議会議員の方々が、私どものボーイスカウト運動をバックアップするために、昨年6月1日に結成された「ボーイスカウト振興茨城議員連盟」からの記念プレゼントなのです。

しかし、このホルダーにつける

「キー（かぎ）」はありません。このかぎはどこにあるのでしょうか。そしてだれがつけるのでしょうか。私は、このホルダーをいただいた皆さん自ら「実践」というかぎを心の中につけることであり、そしてそのかぎは、スカウティングという運動の車を発進させるための「心のかぎ」であります。

私たちの運動の基本は「行うことによって学ぶ」という実践運動であります。このホルダーは物ですから、永い人生のなかでは失うこともあるでしょう。また、常に携帯するよう指導されても、忘れることもあるでしょう。しかし、心の中のかぎは忘れることもな

く、一生持ち続けることのできるかぎであると思います。

皆さん、ボーイスカウト振興茨城議員連盟の方々からの心のもったホルダーにしっかりと「実践」という心のかぎをつけて、スカウティングという車のエンジンに差し込んでください。

「日々の善行」運動も「自然体験」や「社会奉仕」などのように元気で楽しく走ってください。この姿が、私は「平和の斥候」スカウトの真の意味であると思います。

さあ、「心のかぎ」で元気に出発しましょう。

ボーイスカウト茨城県連盟 「日々の善行運動」

「日々の善行運動」とは

ボーイスカウト運動のスローガンは「日々の善行」です。

「日々の善行」を再確認して、改めて社会に対して実践垂範する姿勢を示そうとするものです。

実施期間

平成16年度から3年間

実施方法（標準）

- ① スカウト活動時には、「日々の善行」の実践ごとにネッカチーフの端を結び直して自己確認する。
- ② 日常生活では、「日々の善行キーホルダー」を常に身につけておき、「日々の善行」の実践ごとに左右のポケットの間を移動させて自己確認する。



会派を超えて ボーイスカウト活動をバックアップ

ボーイスカウト振興茨城議員連盟が設立されました

ボーイスカウトの活動をバックアップしスカウト運動の振興を議員の立場から支えて行くことを目的に、超党派で構成する「ボーイスカウト振興茨城議員連盟」が設立され、昨年6月1日、茨城県議会大会議室を会場に設立総会と年度総会が開催されました。

総会には、橋本昌知事（県連名誉連盟長）・川俣勝慶教育長を迎え、議員連盟に参加した県議、スカウト関係者が参加。「未来を拓く若人として、より多くの青少年にきちんとした倫理観を提供してほしい」との橋本知事の挨拶に続いて、山口武平議員連盟会長を議長に、議員連盟規約、事業計画などについて審議し、いずれも満場一致で可決しました。



昨年6月1日、茨城県議会大会議場で開催された設立総会
(写真提供：常陽新聞社)

ボーイスカウト振興茨城議員連盟名簿

平成17年2月1日現在

会 長	山口武平	青木來三郎	新井昇	田所嘉徳
副 会 長	関宗長	松浦英一	木本信男	小田木真代
同	長谷川大紋	粕田良一	磯崎久喜雄	黒部博英
同	長谷川修平	鬼沢忠治	川津隆男	今井洋治
事務局 長	小川一成	潮田龍雄	飯塚秋幸	常綿引久孝
幹 事	桜井富夫	香取多聞	細谷典均	綿織源一郎
同	白田恒夫	石川重衛	武藤俊光	福地津和
同	山岡和之	飯野梨東	細田武司	荻井伸一
監 事	戸井田透	田山正彦	井手昭喜	坪高伸徳
同	海野寛作	鶴岡昌良	加倉井昭孝	大沢勝浩
	足立寛作	西山口孝治	藤島池徳穂	川田規夫

(順不同・敬称略)

アダルトリソース委員会

日本連盟は指導者訓練の手段として、1. 自己研修 2. 個別支援 3. 定型訓練(訓練コース) 4. 定型外訓練 5. 課題研究の5つの方法をあげています。アダルトリソース委員会では定型外訓練に力を注ぎ、県・地区それぞれのレベルでできるものを積極的に実施して参りました。今後もこの定型外訓練を充実させ、指導者の資質の向上を図って行きたいと思ひます。

しかし、これら訓練手段はすべて「自発活動」によるものであり、強制的に行われるものではありません。スカウティングは「教育運動」と定義されていますが、B-Pの言葉の中に「ボーイスカウトの訓練には、最も重要なねらいがある。それは教える(Instruction)ではなく、教育(Educate)することなのだ！すなわち少年が自ら望むものを一人で学ぶように、引き出すことである。」というのがあります。つまり「少年から引き出すこと」、「向上心と自主的に学ぼうとする意欲を持たせる」ことを教育と位置付けしています。我々指導者はこの事を再認識し、自発活動で自ら学び、そして少年達に正しい「教育」を行っていかなくてはありませんか。

総務・渉外委員会

総務・渉外委員会は、今回の規約改正で新たに設けられた委員会です。その任務内容は多岐にわたり、現在7部門の作業班を設置し、各地区からの委員のほかに、専門知識を持っている方をお願いして研究を行っています。

その一部を紹介すると、安全管理作業班は、日常の活動の中に潜んでいる危険を予知する訓練ハンドブックの作成を準備しています。このハンドブックは進級プログラムにも活用できるように工夫を凝らしています。

日常および緊急時の連絡網の整備は事務局合理化・IT化作業班の仕事の一部で、県連盟野営場の建設調査も作業班の仕事です。また県連盟運営の合理化に関する研究や、外部団体との連絡調整なども行い、楽しいスカウティングが繰り広げられるように、いろいろな条件の整備をしています。

プログラム委員会

プログラム委員会の県連規約における任務は、「進歩、プログラム開発、野営・行事、国際に関する事項」とされています。これらの領域に関して、スカウトと指導者の双方を対象に様々な行事や研究会などを実施しています。原隊レベルでのスカウト活動が活性化するように、活動プログラムや進歩に関する行事・定型外訓練を企画・開設します。

また、各地区において「スカウト技能章講習会」を開設しています。通常の活動で取得しにくい、あるいは、活動になじみのない技能に関して、研修する機会をベンチャースカウトに提供するもので、地区のプログラム委員会が独自に設定しています。

今後も県連盟内の顕在化したニーズ・潜在的なニーズに実効ある研修を企画したいと考えています。平成17年度はベンチャー・ローバー向けの「野営場開拓プロジェクト」(仮)も考慮中で、指導者を対象に、月例での研修を提供したいとも考えています。知識・技能の研修の場だけでなく、日頃交流のない指導者との出会いの場としても活用していただきたいと思ひます。

組織・コミュニケーション委員会

組織・コミュニケーション委員会は、これまで組織拡張委員会と広報専門委員会が行っていた

任務を引き継いだ委員会です。県連規約上の主な仕事は、組織・拡張、広報、IT、スカウトクラブに関する事項、その他組織内のコミュニケーションに関する事項とされています。

組織・拡張に関しては、毎年度末の登録事務が一番の仕事となっています。登録事務がコンピュータ化されて3年、各団の登録を担当されている方には、ご苦勞をかけていると思ひますが、ご協力をお願いします。

またこの委員会は、広報等をおしてより多くの人にボーイスカウト活動を理解してもらい、多くの子どもたちにスカウト仲間になってもらうことを任務としています。今後も、茨城のスカウト運動が盛んになるよう努力してまいります。



プログラム委員会のスカウトフォーラム



第6回 日本ベンチャースカウト大会

平成16年8月2日～8日

平成16年8月、関東全域で開催された第6回日本ベンチャースカウト大会。茨城県内でも水戸、日立、土浦の3基地に全国のベンチャースカウトが集結し、カヌー・陶芸などの活動を繰り広げました。各地区での活動を、写真で紹介します。



開会セレモニー



スカウトと作・美和村活動基地



美食倶楽部・中川調理技術専門学校



太陽光発電



那珂川、カヌー



笠間工芸の丘・陶芸家修行

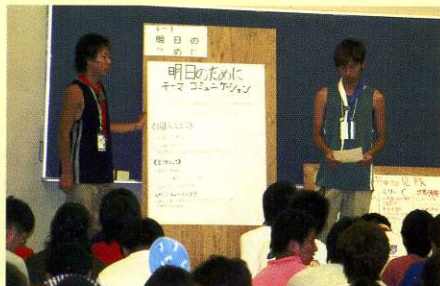


親鸞の道・西念寺



常陸野行脚

8月5日(木)第6回ベンチャースカウト大会の日立基地、水戸基地、土浦基地に全国から参加したスカウト235名は水戸市少年自然の家(水戸基地)に会し、午後いっぱいを楽しみ、6NVフォーラムのテーマ「すばらしい明日に」に基づき、「俺(私)にも言わせろ」形式で分科会を隊(プログラム)ごとに実施し、全体会で提言を採択しました。



スカウトフォーラム

6NV

茨城フォーラムの提言

議長	富岡 賢一(板橋15団)
副議長	島原 浩平(宇和島3団)
記録	竹内 佑介(松山16団)
	伊藤 直貴(神栖1団)

- 1 自分のためにも、誰かのためにも、すばらしい明日であるために、更なる向上を目指し、努力する。
- 2 コミュニケーションを積極的にとり、協力し、精神的余裕を持つ。
- 3 最後まであきらめないでベストを尽くす。
- 4 希望にあふれ、栄光ある未来のために、Do Venture!
- 5 スカウティングに関する諸問題を解決するためには、自分たちが優秀なリーダーになることが第一歩である。
- 6 過去と未来に関心を持ち、充実した明日を創る。

このページは、県内のスカウトの活動を紹介するページです。自薦・他薦を問いません。皆さんの周りで活動するスカウトのニュースをお寄せください。

男体山山頂めざし、スカウト6名が参加

夜間ハイキング訓練 2004 水戸第4団ボーイ隊

これを経験すれば、度胸がついて一回り「人間」が大きくなると噂のボーイ隊夜間ハイキング訓練。今年も、奥久慈の中心、大子町の東南に位置する男体山に、スカウト6名、隊長、サポート2名が4月17日から18日にかけて挑戦しました。昨年上進したばかりの新人スカウト5名と、中学の遠足以来のハイキングという広報担当の団委員1名の不安をのせた一行は、JR水郡線の西金駅を起点に出発。男体山山頂を経て、翌日無事水戸駅に帰着、お疲れ様でした。



男体山の山頂で。(4/18 午前7時48分)

白石陽一氏の叙勲を祝う会を開催

あいさつする白石氏



平成16年度秋の叙勲で県連学識経験理事の白石 陽一氏が「瑞宝双光章」を受章しました。ボーイスカウト維持財団は、長年ボーイスカウト活動に尽力した

白石氏の叙勲を祝う会を、1月27日「ホテルレイクビュー水戸」を会場に、県内スカウト関係者36名を集め盛大に開催しました。

白石氏の叙勲は救急医療の発展に寄与した功労に対するもので、白石氏は長年にわたりボーイスカウト運動に携わり、平成2年からは茨城県連盟の学識経験理事、健康安全委員長、財政委員長、会計監査などを歴任。特にその専門知識を生かしたスカウト救急法講習会の各地区ごとの開催に尽力され、県内での富士スカウト誕生に多大の貢献をされました。

祝う会では、立原 久財団理事長のあいさつ、橋本千代寿副連盟長事の祝辞、記念品贈呈に続き白石氏があいさつに立ち、ボーイスカウト活動の中での救急法研修の重要性を力説。その後の祝宴では、参加者の自己紹介や祝辞などが続く中、白石氏を囲んでの和やかに懇談する光景が見られました。

「そなえよ つねに」と自分自身にもそして選手にも

— 5地区研修会・ラウンドテーブルを開催 —

昨年12月4日、土浦市青少年の家を会場に、第5地区の団委員・指導者合同研修会とラウンドテーブルを開催、アテネオリンピック女子レスリング監督鈴木光氏「スカウト経験がアテネオリンピックでも役立った」と題する講演がありました。

地元出身でスカウト経験もある鈴木氏は、昭和43・44年に土浦5団に在籍し、キャノンの森で開かれた第7回茨城県キャンポリーにも参加しています。講演では、キャンポリーに参加した折、パンツを無くして大変だったことを監督となった現在も教訓とし、「そなえよ つねに」と自分自身に、そして選手にも話しているなどの話がありました。

休憩の後、ラウンドテーブル。団委員長懇談会を行ない、自由参加による地区の懇親会にも多くの参加者がありました。



鈴木監督（前列左から4人目）を囲んで

初めての隊キャンプ

下妻第1団カブ隊

昨年5月9日、第3地区7番目の団として下妻第1団が発団しました。8月には岩瀬町の上野沼で初めてのキャンプ。1泊2日のキャンプでしたが、参加したスカウトは、読み語りを聞き、縄跳びで遊び、初めて経験するカブの隊キャンプを楽しんでいました。

当初、カブ隊だけでスタートした下妻第1団ですが、今年、ボーイ隊を作る予定となっており、9月の発隊に向けて準備を進めています。



一つとるたびにいろいろな「ビックリ」が。

スーパーカブへの道

牛久第2団

荒川 美由希

私が、カブスカウトを始めたばかりのころは、スーパーカブというものを知りませんでした。だから、入ったばかりのころは「ワッペンがたくさんほしいなあ〜、タスキをかけてみたいなあ〜。」と、思ってチャレンジ章をやっていました。そして、チャレンジ章がたくさん集まったら隊長に「美由希はスーパーカブをねらえるよ。」と言われて、初めてスーパーカブというものを知りました。

チャレンジ章は、一つの章をとるたびにいろいろな「ビックリ」や「初めて」があります。地質標本館や、石ころ館に行ったのも、チャレンジ章のおかげだと思います。

スーパーカブになれてうれしいです。

スーパーカブを取って

守谷第1団

カブ隊 中嶋 一貴

ぼくは、カブ隊になってチャレンジブックをもらった時から、たくさんチャレンジしようと思っていました。でも、水泳は苦手だから、スーパーカブはあきらめていました。ウサギのときに20個、シカで9個、でも、簡単なのばかりやっていたので、難しいのばかり残ってくるとだんだんいやになってきました。

くまの夏休みに入る時、隊長にはげまされました。そして、僕はあと一ヶ月がんばろうと思いました。

難しいそうだと思っていたのも、やってみると、少しずつできるようになって、楽しくなりました。最後に残ったのは、やっぱり水泳でしたが、4年に1度しかない地区ビーバーカブラリーで、この水泳の表彰をしてもらえたのは、すごくうれしかったです。スーパーカブを取って、今、最高の気分です。



星野育成会会長の

「かっこう章」受章の祝賀会を開催

土浦第6団

土浦第6団では、5月30日(日)に団行事として恒例の運動会を開催し、同日夕刻から、保護者との懇談会を兼ねて、星野育成会会長の「かっこう章」受章の祝賀会を開催しました。

このかっこう章は、30年の長きにわたりボーイスカウトの育成に尽力された功労をたたえ、日本連盟から授与されたものです。会長の受章は、団にとっても大変喜ばしいことで、この喜びを分かち合おうと多くの者が参集しました。席上星野会長からこれまでの苦労話や懐かしい思い出なども語られ、また、リーダーからもウッドバッジ研修や研修所等でお世話になった話、更にさかのぼってリーダーがスカウト(小学生)であったころの話なども披露され会場を沸かせました。(星野会長は小学校の先生でした)。これからも星野育成会会長と多くのスカウトたちとリーダーが、営火を囲んで語り合える日が長く続くことを記念し、弥栄。

16IC情報



第16回茨城県キャンポリーの年がやってきました。4年に一度のスカウトの祭典、16ICの概略についてお知らせします。詳細については、今後、隊長会議や県連からお知らせしていきたいと考えています。

期 間 平成17年8月4日(木)

～8日(月)

4泊5日

会 場 もとやま自然の村キャンプ場
日立市宮田町

参加者 スカウト・指導者など

約1,000名を予定

傷害共済制度に加入しましょう

日本連盟は、ボーイスカウト加盟員に対する安全教育のさらなる充実化をはかり、安全の確保に関する事業を積極的に推進するため、「万が一の事故」に備えた補償責任を果たすための中核的仕組みとして「傷害共済制度」を創設しました。スカウト活動に最適な保険が日本連盟の傷害共済制度です。

傷害共済制度のメリット

- ベンチャーの単独行動や、指導者の直接の指揮下でない班ハイク中の事故も補償されます。
- 活動場所への往復時も対象です。
- 登録と一緒に加入申し込みをするので、新しく名簿を作成する必要がありません。
- 海外での事故も対象となります。

スカウト・指導者にとって、さらには団・地区・県連・日本連盟にとってもメリットあふれる「傷害共済制度」に加入してください。

吉田俊仁茨城県連盟県コミッショナー寄稿

「今後のコミッショナーとしての役務」



茨城県連盟、正副県コミッショナー・正副地区コミッショナーの役務を、昨年までの「委員会担当」から「部門別担当」に変えました。つまり、ビーバー・カブ・ボーイ・ベンチャー・ローバーの5部門と女子スカウト及び女子指導者担当を設け、それぞれが抱える問題を、担当コミッショナーが把握し、問題解決・改善の努力をしていくものです。そして、今後は「スカウト運動の目的・原理・方法が正しく行われているか?」という観点からすべてを行っていきます。

今回、中島清行(ビーバー&カブ担当)、宮田俊晴(ボーイ&ベンチャー担当)、八城貞子(女子スカウト・女子指導者担当)の3名が県副コミッショナーに就任しました。

今後、これら部門担当コミッショナーを地区でも設けて頂きたいと考えています。地区の事情もあるでしょうが、地区副コミッショナーが部門別の担当を持ち、女子スカウト・女子指導者については女子指導者に担当していただきたいと考えています。県副コミッショナーと地区副コミッショナー、そして団担当コミッショナーが協力し合い、それぞれの部門別の問題点を改善・解決していきたいと思えます。そこで、部門別担当コミッショナーが部門毎に「研究会」(部門別研究会・仮称)を設け、研究・勉強して行くこととなります。

以上のような内容で、今後のコミッショナーとしての役務を行いますので、みなさんのご理解・ご協力をお願いします。

スカウティング茨城 Vol.27

発行：日本ボーイスカウト茨城県連盟

〒310-0034 茨城県水戸市緑町1-1-18

茨城県青少年会館内

Tel.029-226-8482 Fax.029-224-3773

E-mail bsibarak@lilak.ocn.jp

組織コミュニケーション委員会がお送りする最初の広報誌です。もっと早くに出したかったのですが、準備に時間がかかり、やっと発行にこぎ着けました。今後はもう少し頻繁に発行したいと考えています。それには、皆さんのからの情報が不可欠。ご協力をお願いします。